第73回全国造形教育研究大会北海道大会兼第70回全道造形教育研究大会札幌大会

研究構造図：北海道造形教育連盟が提案する造形教育の在り方を、札幌市造形教育連盟が目指す造形活動や題材として具体化

北海道造形教育連盟　研究主題

“わたし”を創る
～今を生きる、共に生きる造形教育～

大会テーマ

2つの研究内容

【研究内容Ⅰ】
“今”“わたし”が生きる造形活動の在り方とは

・作品主義・画一的な指導ではなく，資質・能力育成を中心に据えた子どもが主体的に学ぶ授業
・自己流ではなく，バランスのよい題材配置によるカリキュラム構成　など

【研究内容Ⅱ】
“わたし”が高まる“共に生きる”造形活動の在り方とは

・子どもの発達段階の把握
・材料や用具，発想や技能の抵抗感
・題材の目標や造形環境の設定
・時間や場所の保障　など

新たな見方・感じ方・表し方の獲得

協働的な学びへの必要感の生成

“わたし”の更新
未来をより良く生きる資質・能力の育成

自立のサイクルの生成

札幌市造形教育連盟　研究主題

この子が　感じる＝考える＝表す　造形活動
～造形的な見方・考え方を豊かにする学びを通して～

大会研究主題

「もっと！」を生む題材の設定

視点①「もっと！」を生みだす教材化

・子どもが発揮する資質・能力を想定する。
・子どもの選択の幅を広げる。
・対話的な学びの中で子ども一人一人が意味や価値を創造するようにする。

視点②「もっと！」が連続する活動構成

・子どもが自己との対話や他者との関わりから，意欲を高めていく活動を構成する。
・既習を生かした活動や材料・用具の扱いを身に付ける学習過程をデザインする。

視点③「もっと！」をつなげるための自他の変容を捉える振り返り

・一人一人の“この子”のペースでの振り返りを保障する。
・自己内対話で終始することなく，他者との対話的な振り返りの活動を位置付ける。

視点④「もっと！」を高める学習評価の工夫

・子どもが表現の工夫などについて語っていることに，教師が共感的に寄り添う。
・子どもの表現意図と造形的な視点や活動の意味などを関係付け，子どものよさや可能性を認め，それらの更なる発揮を促す。